

県眼科医会400個作成



▲トートバッグを石川勝行市長(左)に寄贈する県眼科医会の宮本和久理事

「災害時の意思表示に役立てて」

周囲から支援や配慮に繋げるものとして期待も。

同会の宮本和久理事57)は「視覚障がい者は災害時に周囲から気付かれにくいので、このバッグで意思表示のひとつとしたい」と話しています。

愛媛県眼科医会(松山市三番町4・原祐子会長)は先ごろ、視覚障がい者支援用トートバッグを独自で400個作成し、新居浜市に一部を寄贈しました。バッグは自立つオレ

色の視覚障がい者のシンボルマークと「ご協力お願いします」の文字が入ったナイロン製です。大きさは縦42センチ、横37センチ。大規模災害などが発生した場合、避難所などで

シジ色で、真ん中に青色の視覚障がい者のシンボルマークと「ご協力お願いします」の文字が入ったナイロン製です。大きさは縦42センチ、横37センチ。大規模災害などが発生した場合、避難所などで

バッゲは県への寄贈を通じて各団体に配布され、市への寄贈分は希望される個人に配布します。

金言に辿り

万事研修、感謝協力

題字は藤岡抱玉さん

「コロナ禍のなかで、人命と安否を最優先して組員や地域の暮らしを支えたい」。2018年に理事長に就任。組員職員はわずか37人。早晨に事務室に賀川豊彦の話を聞く

設者の賀川豊彦の話を聞く

半年後に職員全員が加盟する組員会結成。委員長

に就任し、労働条件や

福利厚生面の改善などに

取り組んだ。「対立ではなくお互いが納得する家

族的な職場環境が生まれた」と述懐する。

30歳代の時に小学校5年

の長男が難病になり大

阪で入院。5年間の闘

病生活に家族が交代で看

取り組んだ。昨年度には「このままではいけない」と同僚らと共に労働組合を目指した。幹部か

らも「労働者側と経営者

側は対等であるべき」と

言われて勇気づけられ

た。6年後、「えひめ生協

は30万6千人に達し、昨

年度の事業高は355億円

に上る組織を率いる。

「このままではいけない」と同僚らと共に労働組合を目指した。幹部か

らも「労働者側と経営者

側は対等であるべき」と

言われて勇気づけられ

た。6年後、「えひめ生協

は30万6千人に